

アンカーボルトに係る耐震性能評価計算書

型式 : SKC-500AC型(災害対応バルク貯槽ユニット)

当該横置き円筒型貯槽のアンカーボルトに係る耐震性能評価を下記に示します。
「建築設備耐震設計・施工指針 2005 年版」(財団法人日本建築センター)の規定による。

1. 計算条件

①機器の運転重量 $W = W1+W2 = 6.566 + 4.851 = 11.417 \text{ kN}$
 $W1$: 機器本体重量 = 670 kg = 6.566 kN
 $W2$: 充てんLPガス重量 = 495 kg = 4.851 kN

②設計用基準震度 $K_H = 1.5$ (耐震クラスS地表に設置する水槽の場合)

③設計用水平地震力 $F_H = K_H \cdot W = 1.5 \times 11.417 = 17.126 \text{ kN}$

④設計用鉛直地震力 $F_V = 1/2F_H = 8.563 \text{ kN}$

⑤重心

据付面より機器重心までの高さ $h_G = 72.0 \text{ cm}$

ボルトの中心から機器重心までの距離 $\ell_G = 50.0 \text{ cm}$ (周又は長手方向の短い方)

⑥アンカーボルト

機器の転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト本数 $nt = 2 \text{ 本}$

アンカーボルトの総本数 $n = 4 \text{ 本}$ ボルトスパン $\ell = 100.0 \text{ cm}$

2. アンカーボルトの引抜力:Rb 及びせん断力:Q

(周又は長手方向の短い方)

$$Rb = \frac{F_H \cdot h_G - (W - F_V) \cdot \ell_G}{\ell \cdot nt} = \frac{17.126 \times 72.0 - (11.417 - 8.563) \times 50}{200}$$

$$Rb = 5.46 \text{ kN}$$

$$Q = \frac{F_H}{n} = \frac{17.126}{4} \quad Q = 4.29 \text{ kN}$$

3. あと施工アンカーボルトの許容応力

・施工方法: 金属拡張アンカーボルト

・材質: SUS 呼び径: M12 埋込長さ L : 6.0 cm 以上

・コンクリート強度 $F_c = 1.8 \text{ kN/cm}^2$ (推奨コンクリート強度 2.1 kN/cm²)

短期許容引抜荷重 $Ta = 6\pi L^2 p$

$$p = 1/6 \text{Min}(F_c/30, 0.05 + F_c/100)$$

$$p = 1/6 \text{Min}(1.8 \div 30, 0.05 + 1.8 \div 100)$$

$$p = 1/6 \text{Min}(0.06, 0.068) = 0.01$$

$$Ta = 6 \times 3.14 \times 6.0 \times 6.0 \times 0.01 = 6.78 \text{ kN/本}$$

・施工方法: 接着系アンカーボルト(推奨)

・材質: SUS 呼び径: M12 埋込長さ L : 7.2 cm 以上

・コンクリート強度 $F_c = 2.1 \text{ kN/cm}^2$

短期許容引抜荷重 $Ta = F_c / 8\pi \cdot d_2 \cdot L$ d_2 : コンクリートの穿孔径 1.4 cm

※アンカーボルトメーカー推奨値を採用すること。

$$Ta = 2.1 \div 8 \times 3.14 \times 1.4 \times 7.2 = 8.3084 \text{ kN/本}$$

4. 評価結果

| アンカーボルト評価 | | 計算値 | 比較 | ※許容値 | 判定 | 備考 |
|-------------|----|-----------|----|------------|----|------|
| ボルトに生じる引張力 | Rb | 5.46 kN/本 | < | 16.40 kN/本 | 合格 | |
| ボルトに生じるせん断力 | Q | 4.29 kN/本 | < | 9.52 kN/本 | 合格 | |
| ボルトに生じる引抜力 | Rb | 5.46 kN/本 | < | 6.78 kN/本 | 合格 | 金属拡張 |
| | | | < | 8.31 kN/本 | 合格 | 接着系 |

上記の通り計算値はすべて許容値以下であり、強度を満足しています。

※許容値

ボルトの許容引張力 : 使用ボルト谷径断面積×材質による耐力の計算値による。【 0.8 × 20.5 = 16.40 】

ボルトの許容せん断力 : 使用ボルト谷径断面積×材質による耐力/√3の計算値による。【 0.8 × 11.9 = 9.52 】

ボルトの許容引抜力 : 上記、3. あと施工アンカーボルトの許容応力 各Ta による。

注記

本書は、「建築設備耐震設計・施工指針 2005 年版」(財団法人日本建築センター)による実験的計算結果の評価であり、アンカーボルトに係る耐震性能を保証するものではありません。【参考資料です。】

実際のあと施工アンカーの施工にあたっては、上記計算値より各許容値が上回るよう 同指針及び下記指針等を参考にして、適切にコンクリート及びアンカーボルトを選定し、再評価計算の上、適切な施工を行ってください。

(1)あと施工アンカー・連続繊維補強設計・施工指針(平成18年7月国土交通省住宅局建築指導課)

(2)JCAAあと施工アンカー技術資料(2005年5月(社)日本建築あと施工アンカー協会)

本評価計算による弊社推奨

コンクリート強度: 21N/mm²以上、アンカーボルト: 接着系アンカーボルト、材質: SUS304、呼び径: M12、埋込深さ: 7.2 cm 以上

株式会社 関東高压容器製作所 バルク事業部